

130年前の民主主義

－「民主主義的傾向の復活」とは－

「民主主義的傾向」とはポツダム宣言で使われた表現で、日本にも昔から民主主義的な動きがあったことを、連合国側は知っていた。

1、板垣退助を《自由の神様と呼ぶのは正しいか

①岩倉使節団（明治4年～6年）帰国後の明治政府の分裂（1973・明治6年）

維新により武士は特権を失った。その不満をそらせる必要もあって征韓論は出てきた。欧米への外遊をせず国内にいた西郷・江藤・板垣らは征韓を計画、しかし、使節団に加わっていた大久保・木戸・伊藤らは帰国後、内治優先を唱えて征韓計画に反対。敗れた征韓派は下野、反政府運動に。

※武力による反政府運動＝士族反乱（江藤・佐賀の乱～西郷・西南戦争）

※言論による反政府運動＝板垣・江藤・後藤ら「民撰議院設立建白書」提出
自由民権運動の出発点は藩閥勢力内部の権力闘争だったが、外来の「天賦人權論」や「社会契約説」は広く流布。

②「板垣死すとも…」のウソ

1882年（明治15年）、岐阜で自由党党首として演説していた板垣退助が暴漢に襲われたとき、「板垣死すとも自由は死せず」と叫んだといわれるが、実際には事件後、病院に駆けつけた竹内綱（吉田茂の実父）による誇大宣伝だった。

③秩父事件（1884）に対する評価

※『自由党史』（板垣退助監修・1910）

「一種恐るべき社会主義的性質を帯べるを見る…」

※『東陞民権史』（1903）は秩父事件を完全に無視

秩父事件は百姓一揆だから、我ら士族は言及せずという態度、士族民権の限界。「士族民権」は国権拡張、《公》を優先し、農工商を愚民視する傾向が強かった。

④植木枝盛一主張と実際の行動の乖離

女性解放を主張しながら、妻の扱いはひどく、遊郭に泊まったりもしていた。また、議員に当選した後、議会での買収・切り崩し工作をされる側に回ったりした。（中江兆民の批判『無血蟲の陳列場』）
士族民権は本当の民衆の立場に立っていなかった。

2、「農民民権」の源流

①惣（惣村）の成立＝農民の自治的結合

中世・鎌倉末期から室町時代に成立、寄合を通じて共同体の秩序を守るための規約（惣掟）が定められた。こういう流れを無視して後の農民の民権は考えられない。

②近世村落の内部では…

応仁の乱（1467～77）以後、戦国大名の支配が強まる中、次第に惣の自治権は奪われ、太閤検地と刀狩によって惣は消滅したが、その自治的性格は年貢を請け負う下地請や水利、入会地の利用、祭祀などに受け継がれた。

③百姓一揆の場合…義民、傘連判状

江戸時代、宝暦年間に発生した郡上一揆は、長期化した末に、江戸の目安箱を通して将軍に直接訴えることとなった。その結果、藩主が改易処分、一揆の主導者も

処刑されていく。⇒郡上節（映画化され2000年に公開された。）

このような伝統がなければ、明治期の農民の民権もない。

④『東陞民権史』（1903）には群馬事件（1884年・明治17年）の記述がある。

「昔し思へば亜米利加の 独立したるも蓆旗 此らで血の雨降らせねば…」

3、美智子皇后が“深い感銘を覚えた”「五日市憲法」とは何か

※2012年1月、天皇・皇后は五日市郷土館を訪問し、五日市憲法草案を見た。2013年、皇后は自身の誕生日に際し、宮内記者会の質問に文書で回答、その中で五日市憲法草案のことに触れ、「…深い感銘を覚えたことでした。…19世紀末の日本で、市井の人々の間に既に育っていた民権意識を記録するものとして、世界でも珍しい文化遺産ではないかと思えます」としている。

①発見の経緯

1968年、東京経済大学色川大吉ゼミが実施した史料調査の際、五日市町（現あきる野市五日市）の旧深沢家の土蔵の中から発見。

②内容

千葉卓三郎起草の204条。千葉は当時、勸能学校（現・五日市小学校）教員、28歳。国民の基本的な自由や権利の条文は32項目にわたる。

③背景

深沢部落の豪農、深沢名生、権八父子を中心にした学習組織。会員数は約30名。設立は1880年ころ。10代・20代が7割以上、名主・組頭の跡取り。月3回、夜に会合、テーマは「憲法は誰が定めるか」「女帝を立つることの可否」「国会議員に給料を払う可きや否や」など。

五日市は明治期の重要な輸出品であった絹を横浜に運ぶ道沿いにあり、そうしたことから、関係する様々な書籍を入手できる条件があった。深沢家には多数の蔵書が残された。

○五日市だけではない。

長野県から秩父事件に参加した井出為吉宅にも、群馬の島村（現伊勢崎市）の田島弥平宅にも関係する蔵書があり、自由民権高揚期には各地で学習の機運が高まっていたことがわかる。

（まとめ 設楽春樹）